



今を生きる

第 1 号
4月15日(月)
三郷市立北中学校
進路通信

確実な「今」の積み重ねが、理想の「明日」をつくる。 The future depends on what we do now!

「きわめよ3年!」。いよいよ、北中学校の最高学年としての、そして最終学年としての1年が始まりました。この1年間、みなさんは様々な呼ばれ方をします。「3年生」「最上級生」「北中の顔」「受験生」、そして「卒業生」。様々な場面でこれまでの経験を力に変え、自信に変え、下級生をそして先生たちまでも引っ張って行って欲しいです。学習を究め、部活を極め、行事を窮め、最高の1年にしていきましょう。

さて、その最高の1年のために、みなさんは「進路」という壁に真正面から立ち向かっていかなければなりません。抜け道はありません。きちんと向き合い、真っ向勝負です。その中で大切なことは、目の前にある「今」を精一杯生きることです。「進路」というと、つい1年後の自分、3ヶ月後の自分を考え、そのときのことには頭がいっぱいになってしまいます。先のことを考え、想定しておくことはもちろん大切なのですが、そのことばかりにとらわれてしまい、目の前のごとが何となく通り過ぎてしまっただけでは、意味がありません。それでは「思い描く明日の自分」にはたどり着けません。今すべきことに全力で取り組む、その確実な「今」の積み重ねが、理想の「明日」をつくるのです。「受験生」よ、将来の夢・目標をもち、そのためにすべきことを冷静に見極め、理想の明日のために「今」を精一杯生きよう。

それでは「今」すべきこととは何でしょうか。「進路」というスタート地点では、次のことを頭に入れて行動しましょう。

- ①自分を知る努力をしてみましょう。自分の得意なもの、好きなもの(こと)、苦手なもの、嫌いなもの…は何でしょうか。今の自分は何ができていて、何ができていないのかをわかることが、目標への道を歩くための第1歩となります。
- ②自分の目標は何か(就職して社会人となるのか、高校へ進学し学ぶ道に行くのか、専門的な技術を身につけるための学校へいくのか、など)をできるだけ具体的にとらえてみましょう。これには、家の人との十分な話し合いが必要です。目標を定めることで、一年間の見通しをもつこともできます。
- ③イヤでも面倒でも疲れていても、何であろうが意地でも家庭学習の習慣をつけることが大切です。すでに習慣づいている人は苦勞しないかもしれませんが、ここまでテスト前の勉強しかやっていない人は、この「意地でも」という部分を強調したいと思います。
- ④他人の目で自分の姿を見てみましょう。服装、髪型、生活態度、そして授業の準備、提出物…。人を見てみると「あの人はだらしがないなあ」なんて思ってしまうものですが、そのままそっくり自分に返してみると…あれ?ということにはなりませんか?
- ⑤最高学年とは何か、を知りましょう。勉強しているだけが受験生ではないですから。中学校最後(義務教育最後)のこの年、自分を、いや自分たちをどう魅せるか…運動会、合唱コンクール等の学校行事で「3年生とはこうあるべき!」と姿で示すことができなければなりません。その姿とは何かを学ぶことも、立派な受験勉強、就活修行なのです。